

2019年8月19日

2019年度 第30回中唐文学会大会のお知らせ（第2号）

残暑厳しき折、会員の皆様にはお元気でお過ごしでしょうか。
第30回中唐文学会大会は、10月11日（金）の14時20分より、以下の要領で開催いたします。
ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

会 場：神戸研究学園都市 大学共同利用施設UNITY セミナー室4

〒651-2103 兵庫県 神戸市西区 学園西町1丁目 1-1 ユニバープラザ2F

日 程：10月11日（金） 14時20分開始

~~~~~  
14時00分～

**受付開始**

※参加費として1,000円を申し受けます。

14時20分～

**開会の挨拶**

### 研究発表の部（14:20～16:00）

14時20分～15時20分 **第一発表**

題 目：霓裳羽衣曲の幻 ー唐・宋の音楽をむすぶ架け橋としての白居易  
発表者：中 純子（天理大学）

※15時20分～15時30分 休憩

15時30分～16時30分 **第二発表**

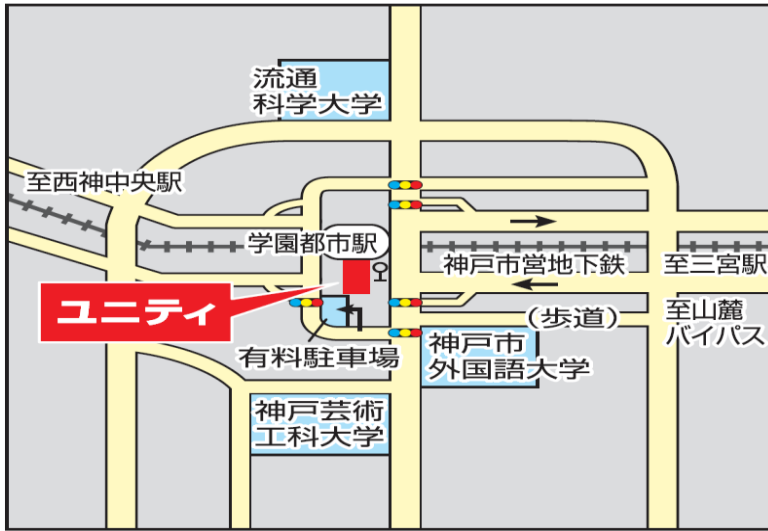
題 目：漢の武帝と唐玄宗あるいは李白のことなど  
発表者：乾 源俊（大谷大学）

16時40分～17時10分 **総会**

18時00分～20時30分 **懇親会** 老房 神戸店（最終頁のご案内をご参照ください）

※大会会場から地下鉄で移動します。懇親会費は4,000円を予定しております。

大会会場 神戸研究学園都市 大学共同利用施設UNITY <https://www.unity-kobe.jp/>  
〒651-2103 兵庫県 神戸市西区 学園西町1丁目 1-1 ユニバープラザ2F



大会会場へのアクセス 神戸市営地下鉄 西神・山手線 学園都市駅 改札を出て右折、徒歩1分  
(駅の南隣のビル、ファミリーマートの上)

※学園都市駅までのアクセス

JR三ノ宮駅・阪神神戸三宮駅・阪急神戸三宮駅・ポートライナー三宮駅  
より 地下鉄西神・山手線（三宮駅）に乗り換え（約25分）

新幹線 新神戸駅 より 地下鉄西神・山手線に乗り換え（約28分）

(会場近辺に宿泊先はほとんどありません。また神戸市内はホテルの数が比較的に少ないため、早めのご予約をお勧めします)

## お願いとお知らせ

※学会出張等に必要書類がございましたら、幹事の紺野 ([battan@inst.kobe-cufs.ac.jp](mailto:battan@inst.kobe-cufs.ac.jp)) までお知らせ下さい。

※本会は、会費の納付で会員資格継続の作業を進めます。

同封した振込用紙に金額をご記入の上、お振り込み下さいますようお願いいたします。

【振込先】 口座番号 00100-8-631654

口座名称 中唐文学会

正会員3,000 円、準会員（会報不要の方）1,000 円

準備の都合上、会費振込（あわせて大会・懇親会の出欠確認）は

**9月20日（金）まで**にお願い致します。

### 各問い合わせ先

大会関連： 紺野達也 ([battan@inst.kobe-cufs.ac.jp](mailto:battan@inst.kobe-cufs.ac.jp))  
幹事(会報)： 上原尉暢（編集長）・紺野達也（副編集長）  
幹事(会計)： 高芝麻子  
幹事(広報・通信・名簿管理)： 加藤聡

## 【研究発表】

### 「霓裳羽衣曲の幻 -唐・宋の音楽をむすぶ架け橋としての白居易」 中 純子（天理大学）

中唐の白居易・元稹の詩文が、唐代音楽研究の重要な資料であることは、言を俟たない。なかでも宋代文人は、その限界を知りながらも、ここで扱う「霓裳羽衣曲」のような盛唐音楽の由来や、構成を彼らの詩文に確かめ、音楽や舞を想像した。

ここでは、中唐の白居易が、盛唐音楽である「霓裳羽衣曲」にどのような意味づけをしようとしたのかを考えてみたい。憲宗の元和初期において演奏された宮廷音楽のなかで、白居易は特に「霓裳羽衣曲」を好んだ。白詩が流行することによって「霓裳羽衣曲」は開元・天宝の宮廷音楽の代名詞のようにさえた。それゆえに「霓裳羽衣曲」は、中唐において再生された盛唐音楽ともいえる。ならば、白詩によって盛唐の「霓裳羽衣曲」を復元する試みは、一つの幻想と言えよう。しかしながら、それを知りつつも宋代文人は白詩にこだわった。そこに、実際の音楽伝承とは別の次元で、詩文によってこそつながりゆく唐・宋音楽のありかたの一端がみられるのではなかろうか。

### 「漢の武帝と唐玄宗あるいは李白のことなど」

乾 源俊（大谷大学）

漢の武帝と唐の玄宗は両大帝国の国力が頂点に達した時代の英主として併称される。若くして帝位に即き在位はそれぞれ五十年に前後する。ともに宗教にいれあげ不老長生を願い、晩年にはそれが嵩じ周囲を巻きこんで、宗教政策は常軌を逸した様相を呈してゆく。元鼎元封間と開元天宝の際と、ふたつの時代は両皇帝の信仰が過熱した、極めて似た状況のように映る。それぞれ宗教施設を建て、儀式祭祀のなかで神を招来しようとする。その仕方に時代の隔たりによる違いはあるが、さまざまな差異を越えて両者の間にはひとつの筋道が通じている。李少君の述べた、竈の神を祀れば物を致し、物を致せば丹沙は化して黄金とすべく、黄金の器で飲食すれば長寿となり、長寿となれば蓬萊神僊に逢うことがかない、神僊に逢い封禪すれば不死となる、という。『淮南子』によれば、崑崙から涼風、懸圃、上天へと上層に遷るに従って不死、靈、神となるということであり、物質的要素が脱落していくかに見えるが、武帝の取組みは、神龍とわれわれの世界の間に天馬を媒介させるように、見えぬ神にかたちを与えること、神物を可視化しいわば物質化してわれわれの側に引き入れる試みであるともうけとれる。これに較べると玄宗の取組みは聖典化した老子のテキストを介し、その読解によって探求される境地へと内面化した、精神的なアプローチに転じたものと見えるかもしれない。また夢の闕を越えて降現した玄元皇帝の言のように、こちら側の世界に偶像を建てる一方で、向こう側の神仙世界が想定され、この二重化された平行世界において不死登僊がはかられる、ということにおいてもより洗練された解決となっている。しかしそこにはこの間に進展した鍊薬の成果が必須の要件として関与しているのであり、武帝には得ることのできなかつた体験が、おそらくは薬物の効果を受けたものである点で、これも物質的解決が追求されたことの成果である。永遠の寿は嵩山の薬の効能によるのである。両皇帝の宗教をめぐる言説とそれにかかわる李白歌詩の表現について考えてみたい。

## 懇親会会場 老房 神戸店

神戸市中央区下山手通2-12-9 TEL. 078-331-7050

阪急神戸線 神戸三宮駅 徒歩5分

JR神戸線 三ノ宮駅 徒歩7分

阪神本線 三宮駅 徒歩6分

神戸市営地下鉄 三宮駅 徒歩2分

1. 大会会場からの場合、学園都市駅から神戸市営地下鉄の三宮方面の列車に乗車します。
2. 三宮駅に到着したら、ホームを左へと進み、改札口を通過後、W3出口にお進みください。
3. 地上へ出ましたら、歩道を右に進み、三番目の路地を右に曲がって進みます。
4. 右側にある白壁の建物が会場です。

